

喫煙と血清中性脂肪、ヘモグロビン A1c との関係は内臓脂肪によって異なる

甲田道子^{1,2}、北村伊都子^{2,3}、大藏倫博^{2,4}、大塚礼²、安藤富士子^{2,5}、下方浩史^{2,6}

1. 中部大学応用生物学部
2. 国立長寿医療研究センター
3. 愛知学院大学教養部
4. 筑波大学体育専門学群
5. 愛知淑徳大学健康医療科学部
6. 名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科

要約

背景：喫煙者や禁煙者は、脂質状態や血糖値に関して非喫煙者よりも好ましくない状態にあるかどうか依然として明確ではない。

方法：対象者は 42-81 歳の日本人男性 1152 名であった。対象者を喫煙習慣（非喫煙、禁煙、喫煙の 3 群）で分け、さらに内臓脂肪面積（VFA）（100cm²未満群と 100cm²以上群）で分割した。

結果：血清中性脂肪（TG）値について 835 名で検討した。VFA100cm²以上では、喫煙群の TG150mg/dL 以上の人の割合（47.3%）は、禁煙群（36.4%）や非喫煙群（18.8%）と比較して有意に高かった。禁煙群と非喫煙群間においても TG 値の分布は有意に異なっていた。しかし、VFA100 cm²未満では、3 群間で違いは認められなかった。血清ヘモグロビン A1c（HbA1c）値に関する 877 名で同様に検討した。VFA100 cm²未満では、喫煙群（17.9%）と禁煙群（14.9%）の HbA1c5.6%以上の人の割合は、非喫煙群（6.3%）と比較して有意に高かった。反対に、VFA100 cm²以上では、それらの割合は非喫煙群や喫煙群よりも禁煙群で有意に低かった。また、喫煙習慣と VFA との交互作用は TG 値および HbA1c 値でともにみられたが、TG 値や HbA1c 値と喫煙習慣との関係は VFA によって異なっていた。

結論：喫煙も VFA もそれぞれ TG 値や HbA1c 値と関係することが認められた。喫煙習慣とそれらとの関係は VFA の大小によって異なっていた。

キーワード

喫煙習慣、内臓脂肪、交互作用、血清中性脂肪、ヘモグロビン A1c